

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む教育課程編成に取り組み、これからの時代を逞しく生きていく力を身に付けさせる。</p> <p>②多様な形態の学習機会を提供し、共通教科・科目の学習の充実及び、看護・医療・社会福祉の専門教育の充実を図り、将来の職に求められる教養を身に付けさせる。</p>	<p>①主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。ICT を利活用し「個別最適な学び」の充実に取り組む。新学習指導要領の理念を柱に主体的・対話的で深い学びの授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>②共通教科と専門教科をバランスよく学び、上級学校進学に向け、自ら学ぶ力を育成するとともに将来の職業に求められる資質・能力を身につけさせる。</p>	<p>①各教科で生徒が主体的に基礎学力の定着を図れるような授業展開を計画する。教科会を中心にそのための組織的な授業改善への一助として相互授業見学・研究授業（公開）を行う。</p> <p>新学習指導要領に基づき指導と評価の計画を作成し、指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>②相互授業見学中で共通教科と専門教科の間で互いに授業を見学し、自身の教科でいかせるようにする。生徒の資質・能力の向上に向けて個別最適な学び、協働的な学びにICTを活用し取り組む。</p>	<p>①生徒による授業評価に基礎学力の向上が見られたかという観点を作り、生徒各自に評価してもらい教科会等で分析し、授業改善にいかすことができたか。定期テストや模擬試験の結果をもとに分析し、基礎学力の向上や授業改善につなげることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な指導と評価の計画を作成し、指導と評価の一体化につなげることができたか。 <p>②相互授業見学の報告書から様々な教科の見学が前年度より増えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を利活用した授業が増えたか。効果的な利活用の授業実践の取組が増えたか。
2	生徒指導・ 支援	<p>①部活動や行事等日常生活指導を通して、社会規範を身に付け、責任感や連帯感を図り、自己実現に努力する姿勢を育てる。</p> <p>②組織的な教育相談体制のもと、課題を抱える生徒の支援に取り組む中で、困難を乗り越える力の育成を図るとともに、安全・安心な学校生活を確保する。</p>	<p>①(1)生徒主体の行事を充実させ、部活動の活性化を図り、責任感や連帯感をはぐくみ、生徒自ら考え行動する力やコミュニケーション力を育成する。</p> <p>①(2)日常生活指導を通して生徒の規範意識を高める。自己肯定感を高め、自己実現に努力する姿勢を育成する。</p> <p>②(1)全職員で生徒情報を共有し、校内のSCやSSW、外部機関と連携した教育相談を行い、組織的な支援体制を推進する。</p> <p>(2)職員研修の充実を図り、生徒・保護者理解へのスキルを高める。</p>	<p>①(1)委員会の活動を通じて各生徒の自己有用感を醸成する。部活動の活動の様子を外へ広報するとともに大会参加や日々の練習を通して連帯感を育む。</p> <p>①(2)頭髪服装指導を、計画的に実施するとともに、日々の学校生活の中で全職員が共通理解のもと意識的に行う。</p> <p>②(1)生徒情報交換会やケース会議等を通して情報共有および支援方法を確認し、職員で統一した指導・支援を図る。面接等を計画的に行い生徒の状況を把握し生徒一人ひとりの心に寄り添う指導を行う。組織的な教育相談体制を推進し、外部機関との連携を進める。</p> <p>(2)生徒が抱える問題をテーマとした教育相談職員研修を実施する。</p>	<p>①(1)放送委員会によるお昼の放送実施や新聞委員会による新聞作りの促進などを通じて、学校への帰属意識とともに学校生活への充実感を持たせることができたか。また部活動の様子をInstagramで外部に広報することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の取組状況 <p>①(2)頭髪服装指導期間における指導対象生徒数が減少したか。</p> <p>全職員が共通理解をもち取り組む体制を推進できたか。面接等を生徒支援にいかす取組を進めることができたか。</p> <p>②(1)組織的な情報共有および課題を抱える生徒に必要な支援につなぐことができたか。</p> <p>(2)生徒支援に係る研修を通して生徒・保護者対応にいかすことができたか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①社会に奉仕する心を育み、看護・医療・社会福祉などの分野における、社会の良き担い手として活躍できる人材を育成する。</p> <p>②進路実現に向け自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。</p>	<p>①(1)将来ヒューマンサービスに従事する人材として、社会人基礎力と上級学校進学に向けた学力の向上を図る。</p> <p>①(2)校外実習や講演会等を通して「看護の心」「福祉の心」を育み、自ら「できること」の互助を考えさせる。</p> <p>②3年間を見通したキャリア教育を実践する。キャリアパスポートを活用し自己の生き方を取り方を考えさせる。上級学校進学に向けてガイダンスの充実を図り、生徒の進路実現を支援する。</p>	<p>①(1)様々な経験を通して実践力を身に付けられる支援をする。授業・模擬試験等の振り返りを充実させる。保護者への情報発信方法を模索する。</p> <p>①(2)共感力や想像力を磨くため「求められていること」を捉えた活動等への積極的な参加を促す。小さなことから取り組んでいる住民組織の活動等の情報収集を行い、地域や社会が豊かさを感じられるよう、社会課題の解決に取り組みさせる。</p> <p>②進路に関わる情報発信やガイダンス等で、各学年における取組を把握させ計画的に取り組ませる。卒業生による進路説明会で行い、学習方法や進路選択の考え方を学び、自分の強みを活かし、進路実現に向けて自信と目標を身につけさせる。</p>	<p>①(1)人として熱意を持ち専門職としての自覚を有するための指導を実践できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路状況等。 キャリア教育や授業の取組実践状況 <p>①(2)奉仕活動を通して、更に地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと生徒が感じることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアや体験活動などの「したいこと」の達成状況等。 <p>②進路実現に向けて努力する過程を指導、支援することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年における進路希望調査と進路状況や各種振り返り状況等。 卒業生による進路説明会、情報発信やガイダンス等の実施状況等。
4	地域等との 協働	<p>①地域の期待に応え、地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>②地域と連携した防災体制の整備を促進し、社会参画の意識を醸成する。</p>	<p>①(1)地域の協働と信頼を得るために学校の活動や取組をHPやInstagram等を活用し地域に発信する。</p> <p>①(2)地域と連携し、生徒の委員会活動や部活動の発表の場を設ける。</p> <p>②生徒と地域とで連携した防災活動を実施する。</p>	<p>①(1)行事や授業、部活動での地域との協働的な活動の様子をInstagramやHPで紹介する。</p> <p>①(2)InstagramやHPにより地域との新たな連携の呼びかけを行う。</p> <p>②地域と連携した防災訓練を行う。また生徒会の生徒と文化祭開催の告知を行う。部活動等での地域連携に取り組む。</p>	<p>①InstagramやHPで地域と連携した活動の紹介ができたか。</p> <p>①新たな地域連携の場を設けることができたか。</p> <p>②地域と連携した防災訓練を実施できたか。文化祭ポスターを生徒とともに地域や近隣施設に掲示依頼をすることができたか。部活動等の地域連携を進めることができたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①保護者や周辺地域に対して、本校の教育活動に対する理解を深化させる。</p> <p>②情報管理の徹底を図り、さらなる校務処理の情報化を推進し、事故・不祥事の根絶を徹底する。</p> <p>③教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①保護者や地域に対して適期に情報を発信する。</p> <p>令和7年度の学科改編に向け準備委員会を中心に全職員で取り組む。</p> <p>60周年行事に向けて準備する。</p> <p>②入学者選抜や成績処理等個人情報管理を徹底し、事故・不祥事防止を実践する。体育館耐震工事で生徒の安全に配慮する。</p> <p>③働き方改革では職員が主体的に業務を遂行できるよう取り組む。</p>	<p>①InstagramとHPの他、紙媒体による情報発信の場を開拓する。</p> <p>学科改編に向け準備委員会・校内ワーキンググループを中心に全職員で取り組む。適宜情報を発信する。60周年委員会を立ち上げ、各グループと協働し準備を進める。</p> <p>②不祥事防止会議、職員研修を適宜行う。</p> <p>体育館の耐震工事では、生徒・保護者へ適宜状況を伝え安全に配慮する。</p> <p>③業務の効率化、タイムマネジメントに教職員が意識をもち取り組む。当事者意識をもち、主体的に業務を遂行する。</p>	<p>①新たな情報発信の場を設けることができたか。</p> <p>紙媒体によるちらしや学校案内等で工夫し効果的に活用できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科改編や60周年事業を関係部署と連携し、組織的に円滑に進めることができたか。 <p>②職員研修を計画的に実施できたか。</p> <p>体育館の改修工事を安全に配慮し実施できたか。</p> <p>③マニュアルの作成や業務の引継ぎを適切に行い業務の効率化を進めることができたか、会議時間の短縮や定時退庁等タイムマネジメントの職員の意識の向上を図れたか。</p>

